

事項	キク半身萎凋病分離菌株の秋ぎく品種に対する病原性の多様性		
ねらい	キク半身萎凋病分離菌株は菌株によって秋ぎく品種に対する病原性が大きく異なることが明らかになったので本病防除指導上の参考に供する。		
指導 参考 考 内 容	<p>平成13年、キク半身萎凋病菌2菌株を用いた試験で、品種「神馬」が半身萎凋病に対して病性であり、品種「秀芳の力」は、比較的抵抗性であるとの結果を得た。しかし、本年、キク半身萎凋病分離20菌株を用いて更に検討した結果、その分離場所及び品種によって、「神馬」及び「秀芳の力」に対し病原性が大きく異なっていることが明らかとなった。その概要は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「神馬」に対する病原性 「神馬」、「紅精興」、「秀芳雄志」及び「翠心」から分離された8菌株は、「神馬」に対して強い病原性を示した。 2 「秀芳の力」に対する病原性 「秀芳の力」、「精興の記」、「十五夜」などから分離された9菌株は、「秀芳の力」に対して強い病原性を示した。 3 「神馬」及び「秀芳の力」両品種にほぼ同等の病原性を示す分離菌株 「サマーキング」、「スーパーイエロー」などから分離された3菌株は、「神馬」及び「秀芳の力」に対してほぼ同等の病原性を示した。 <p>以上のようにキク品種から分離される半身萎凋病菌の病原性は、分離菌株により大きく異なることが明らかとなった。このことは、ほ場（ハウス）によって発病しやすい品種は異なることを示しているので、キク半身萎凋病を回避するために品種抵抗性を利用することは、現状では困難と考えられる。</p>		
期待される効果	キク半身萎凋病の防除指導上の参考となる。		
利用上の注意事項			
担当	フラワーセンター21あおもり 生産技術部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成12～14年度 フラワーセンター21あおもり試験成績概要集 平成15年度 日本植物病理学会大会（予定）		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 秋ぎく品種「秀芳の力」及び「神馬」に対する半身萎凋病菌の病原性

(平成14年フラワーセあおもり)

菌株	産地	分離 品種	秀芳の力		神馬	
			発病株率(%)	発病度	発病株率(%)	発病度
FA97-119	倉石村横倉	不明	100	50.0	75	18.8
FA97-120	倉石村横倉	不明	100	37.5	25	6.3
FA97-121	倉石村横倉	不明	100	50.0	25	6.3
FA97-122	倉石村横倉	不明	100	43.8	0	0.0
FA98-63	不明	サマーキング	100	43.8	100	31.3
FA99-71	今別町	紅精興	50	12.5	100	93.8
FA99-72	今別町	紅精興	0	0.0	100	43.8
FA99-74	今別町	紅精興	100	43.8	50	12.5
FA00-22	田舎館村	(小ぎく)	100	43.8	100	25.0
FA00-38	板柳町	神馬	0	0.0	100	68.8
FA01-8	今別町鍋田	スーパーイエロー	100	37.5	100	37.5
FA01-19	柏村	秀芳雄志	25	6.3	100	75.0
FA01-28	三戸町斗内	神馬	0	0.0	100	62.5
FA01-30	新郷村長峰	神馬	0	0.0	100	50.0
FA01-32	尾上町高木	翠心	25	6.3	100	62.5
FA01-34	尾上町猿賀	精興の記	100	37.5	25	6.3
FA01-36	尾上町猿賀	神馬	75	18.8	100	75.0
FA01-38	平賀町石郷	(食用菊)	100	50.0	100	50.0
FA01-40	野辺地町	十五夜(餓鷹)	100	43.8	0	0.0
FA01-44	今別町鍋田	秀芳の力	100	62.5	100	31.3
無接種	—	—	0	0.0	0	0.0

(注) 発病程度指数 0 : 病徴なし

1 : 下位葉のみの枯れ上がり

2 : 中位葉まで枯れ上がり

3 : 上位葉までの枯れ上がり

4 : 株全体の萎凋

$$\text{発病度} = (\sum (\text{指数} \times \text{程度別発病株数}) \times 100) / (\text{調査株数} \times 4)$$